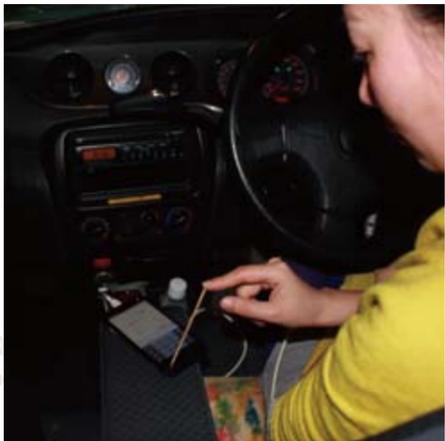




トンチ (写真を見て) めっちゃおもろいやん(笑)。何してんねんやろ(笑)。レインボーブリッジで何してんねん。  
 益山 見して見して。ああいいやんいいやん。何やねんこいつら。  
 トンチ (笑) これ、かなり面白い。  
 益山 関西ウォーカー感すごいわ(笑)  
 トンチ これは面白いことになってきたよ。それはいい写真やね。  
 益山 これ、レインボーブリッジ渡れんの。  
 トンチ 渡ってみようか、せっかくやし。  
 益山 渡りましょうよ、ちよっと。  
 (スマホのナビを触ろうとして)  
 トンチ すいません。つまようじが、うちの鞆取ってもらっていい？  
 益山 出た。システムシステム。トンチシステムが必要や。  
 トンチ 全然、スマートフォン便利ちゃうから。バックボタンが外れてるわけですよ。この穴にぶすって刺さないと、  
 益山 つまようじが常に入ってるんですか。  
 トンチ それをつんつんするものが、どうも、こちらです。竹串ちゃんです。



これがトンチシステムだ!!!

トンチシステムによりようやくナビが作動。  
 益山 (笑)  
 トンチ じゃあレインボーブリッジ渡れそうなので、渡ってみたいと思いますよ。  
 益山 お願います。興奮してハザードたきつ放し、あ、竹串が落ちた。すいません。私の命綱。あとで探さないとナビが作動しないのでおうちに帰ることができませんよ。

益山 で、この間の10周年の『重力の光』で、ゲストに出てもらって、  
 トンチ あのときは風邪引いて申し訳なかった。  
 益山 あ、そうなん？  
 トンチ あんとき8度5分ぐらいあってん。インフルエンザじゃなかったんけど。でも声もがらがらやし、熱に浮かされてわけわからなくて、ほんまにあかんなって思ってたつちや反省したわ。すごい反省した。  
 益山 『重力の光』のときに、今回の『真夜中の虹』っていう作品の初期イメージがあって、それは高速道路のそばに住む人たちの話を書くことと思って。僕自身も高速道路の横が実家でそこで育ったので。そんときに、夜寝ると、遠くのほうからぼろんぼろんみたいな音が聞こえてくるねんか。何の音か今でもよくわからへんねんけど、それは多分遠くで車が走ってる音とか、不思議な音が聞こえてきてんけど。その音とステイールパンの音がちよっと似てるなっていうふう思ったのね。  
 トンチ なんかちよっとステイールパンってトロボカルなイメージ持たれがちなやけど、もちろんそうやねんけど、結構夜の夢っぽい音でもあるなっていつも思う。ちよっと儂いとか。  
 益山 遠くから聞こえてくるような感じがすごいする。  
 トンチ 夢っぽいなって自分も思うときがある。  
 益山 あぶくの音みたいやしね、遠くではこぼこぼこって鳴ってる。で、そのイメージと自分が考えてる今回の芝居の高速道路路っていうところがリンクして、トンチに頼もっていうふうに思ってた。だから劇場で確か話したと思う、すぐ(笑)。  
 トンチ おもしろそうやなと思った。うちずっと前から映画音楽とか、物語の音楽を作りたいっていうのは昔からすごいあったからいいきつかけやなと思って。やったことはないけどずっとやってみたいことの1つやったから。  
 益山 よかった、タイミングとしては。  
 トンチ すごいタイミングやなって思う。  
 益山 今日の目的地であるレインボーブリッジはオーバーし

益山 レインボーブリッジって渡ったら向こう側何なんやろ。  
 トンチ 何なんやろな。渡ってみよか、とりあえず。  
 益山 渡ったら東京？当たり前か。渡ったら何なんやろ。

『演劇はじめて物語』

トンチ ボスくんの話聞いたほうがええんちゃう。  
 益山 あたしは子供のときからごっこ遊びが好きやったから例えばテレビの役者のまねみたいなの。兄弟で。  
 トンチ あ、兄弟も多いんやもんね。  
 益山 そう。  
 トンチ みんなでそれを、  
 益山 でももちろんそのまんまのまねはできひんくて、子供出力になるやん(笑)。  
 トンチ 自分の中であんまり演劇って、なるきつかけがわからへんくて。  
 益山 俺の場合は、脚本書くっていう、物語を作るっていうのは、小学校4年生の頃に小説みたいなん書いて。  
 トンチ あ、もうすでに？  
 益山 そう。それが1番自分が覚えている最古の物語かな。  
 トンチ その物語の内容ものすごい気になる。  
 益山 子供が考えそうなのとか、勇者の冒険みたいな、でもちやんと文字だけで書いてたね。  
 トンチ 文字だけで書いてたや。子供のときって絵とかで書くやん。吹き出しとかで漫画みたいに。  
 益山 ちゃんと言葉で書いてたと思う。  
 トンチ すごいな。  
 益山 最後はなんか大魔王がゴキブリになって、それを勇者が踏んで終わらしたいな、そんな物語やったかな。  
 トンチ 面白そうやね、それ。  
 益山 そんな感じやった(笑)。で、中学校のときも、キャンパスのときとかにあるクラスの寸劇みたいなものを仕切ってたやったりとか、自分で脚本まがいのものを書いてみたり、  
 トンチ じゃあもう小学校からそういうのはしてたんやね。  
 益山 友達と文化祭で映画撮ったりみたいなの。  
 トンチ そうなんや。早いね。  
 益山 そういうのやったりとかして。で、高校で演劇部に入ってた。そこから演劇っていうものがあねんなって、ちゃんと知ってた。  
 トンチ そうなんや。

トンチ ちゃつたけど。今回の作品は『オズの魔法使い』が作品の下敷きになってるところがある。  
 益山 あ、そうなん。  
 トンチ で、オーバー・ザ・レインボー、虹を超えて、で、『真夜中の虹』っていうイメージを作ってきた。まずもとは、高速道路にあるナトリウムランプ、こういう(街灯を指し)ランプやね、黄色いランプがいろんなものをセピア色に染めてしまっって色が抜け落ちたようになってしまっう。それが、高速道路が道にかかっているのが虹のように見えて、真夜中になると虹は色あせてしまっうっていうようなイメージで『真夜中の虹』っていうタイトルにしたのね。そこから、虹といえば『オズの魔法使い』でオーバー・ザ・レインボーというイメージがあったので。まあ今回はレインボーブリッジをオーバーしてみたいな(笑)。  
 トンチ 図らずもオーバーしてしまったね。  
 益山 そうそう(笑)。いつのまにか。  
 トンチ 『オーバー・ザ・レインボー』の曲はめちゃめちゃ好きやねん。  
 益山 いいよね。  
 トンチ うち引越したときにもめっちゃ聞いたよ、何回も。  
 『虹の回ひなせ...』  
 トンチ 見て、自由の女神あるわ。「安納芋やってます」もあるわ。これちゃうん。ほら、見て、めっちゃシニールやけど。  
 益山 すごいな。  
 トンチ ここちゃう？やばない？この辺ちゃうの？違う？ただうちが自由の女神に反応してるだけやねんけど。  
 益山 何であんの、こんなん。  
 トンチ いきなり出てきたんやけど、撮れといわんばかりにさ。  
 益山 これもやっぱりバブルの時代に作られたんかな。  
 トンチ でしょうね。

益山 これですか。  
 トンチ これですよね、多分。  
 益山 これがブリッジの入り口。  
 トンチ です。うち中1のとき実は演劇部やったよ。  
 益山 あ、そうなん。  
 トンチ 1年だけ。たこ焼きがその部活だけ食べれるから。  
 益山 (笑)。たこ焼き？  
 トンチ 浅はかな理由で。でもそこで腹式呼吸だけ習って。発声だけ習って。のちのち、めっちゃ生かされた。  
 益山 歌歌うときに。  
 トンチ うん。子供鉦人をうちが知ったの、お互い大阪っていうか関西やん。でも関西時代は交流がほとんどないやんか、共通の友達はあるけど。だから聞くけど、劇団子供鉦人を立ち上げるきつかけになったのがいつ頃とか、そういう初歩的なことは聞いても大丈夫？  
 益山 初め、高校の演劇部の部員やった子たちと一緒に、同級生たちと一緒に高校卒業してから劇団を作ったの。で、うわあ、すごい、これ、ごめん、このビル群何。新宿？(ちがいます)

益山 ビル群すごいね。ちよっと。  
 トンチ 六本木、これ(ちがいます)。すごいな。よくこんなものを作る気になったよ。この中の一つ一つに人が住んでたり、生活したり、仕事してるわけだしよ。  
 トンチ 橋差し掛かりますよ。レインボーブリッジにそろそろ、来た？来た？すごい。ユニバーサルスタジオジャパンの入り口みたい(笑)。  
 トンチ 入りますよ！  
 益山 ありがとうございます。うわ、向こう岸すごい、本当にエメラルドシティみたいになってる『オズの魔法使い』の。何で東京来たん？いや、今このビル群を見て、東京やなあと思ってる。

トンチ うち？大阪むちゃむちゃ楽しかったんやんか。友達もすごい最高やし。むっちゃ楽しいし。関西でもライブもすごい楽しいし、みんな素晴らしいミュージシャンの人たちばかりやし、でもこんだけちゃんとした友達関係が築けるんやったら、どこに行っても仲いいんやろなって思った。東京に何のあてもなかつてんけど、すごい仲いいミュージシャンの友達がいる、引越しておいでよって言うてくれて、何かわからんけど行ってみようと思ってる、軽はずみに引越した。

『真夜中の虹』の世界とステイールパン

益山 調子乗ってんな。  
 トンチ やっぱ自由の女神しよってなつたんやろ。  
 益山 やっぱ引越して何がやっぱりなん(笑)。



おわり